

三芳町男女共同参画推進会議とは、公募や推薦により選ばれた12名で構成する、男女平等や男女共同参画の推進を目的とした事業を行政と協働して取り組む団体です。

〈活動内容〉

- ・「共に生きる女と男のセミナー」企画・運営
- ・情報誌「まなざし」の企画・編集
- ・男女共同参画推進施策への提案及び意見
- ・「女と男の共同参画プラン」の進捗状況の確認
- ・「日本女性会議」ほか研修会参加



みよしまち共に生きる女と男のセミナー
今年度は、「家族・子育て・介護」をテーマとして企画しました。

第1回目 平成15年11月16日(日)

テーマ 「いきいき子育てと家族」

講師：たけなが かずこ氏
(マザーリング&ファミリーナッシング研究所長)



第2回目 平成15年12月6日(土)

テーマ 「漫才で笑って!笑って!
~家族・子育て~」

講師：林家ライス・カレー子氏(漫才師)



第3回目 平成16年2月29日(日)

テーマ 「高齢社会への提言!
豊かな向老期を迎えるために」

講師：樋口 恵子(評論家)

※「ヒューマン・フェスタ2004」として合同開催

共に生きる女と男のセミナー①

『いきいき家族と子育て』

委員 神川恭子

第1回目は藤久保公民館にて、マザーリング&ファミリーナッシング研究所長の竹永和子さんをお招きしてお話を伺いました。マザーリングという言葉は聞きなれない方が多いと思いますが、子育てをする人を回りの人が精神的にも肉体的にも温かい気持ちで支えていくことの大切さや、夫婦が対等な気持ちで支えあうことによって、気持ちのよい老後、人生を送ることができるというお話でした。その中でも、特に母親に『自分が愛された分だけ、子どもやほかの人を愛することができる、愛された、愛してきたという実感を持つことが大切だ。』という言葉が胸に響いています。そのためには、「ありがとう」「愛しているよ。」と、ちょっと照れくさいですが、感謝の気持ちをきちんと伝えることが大切ということ、竹永さんが挙げられた多くの事例から知ることができました。つまり、子育てをする人が愛を持って子育てをするためには、周りの人が子育てをする人を愛し、感謝の気持ちを伝えることが大切だということです。

今回のセミナーには多くの町民の方にご参加いただき、心に響く話だった、意識を改めたなど、よかったという感想がたくさん届き、大成功でした。女性の参加が多かったのですが、ぜひ男性にも参加していただき、男女共同参画社会についての意識を、男女共に高めていきたいというのが私たち推進委員の願いです。

共に生きる女と男のセミナー②

『漫才で笑って!笑って!~家族・子育て~』

委員 静間浩美

楽しい笑いの中から、子育てのあり方、人間としての生き方等を林家さん一家の実例や日常生活の中でのエピソードを通してお話いただきました。その中で、ライスさんは「女性を食事に誘う時、新聞等を読んでいて会話の楽しい人ならば長く一緒にいたいから高級ホテルのレストラン、普通ならファミリーレストラン、早く帰りたい(別れたい)人ならラーメン屋さんで…」という話ができました。それは結局、女性とか男性とか性別に関係なく人間として魅力のある人ならばということだと感じました。“人生行き詰まったらどうするか。努力なくして人生は開けない。今この一瞬にベストを尽くす。それで人生が決まる。”ご夫婦の今まで生きてきた姿勢と重なり合った力強いメッセージでした。男も女も親も子も結局は人と人。楽しい会話の連続から人間同士いい関係が結ばれ、それがお互いの幸福につながる、家族の絆が深まる、という話はとても心に残りました。笑いの中にも、学ぶこと、考えさせられることなど、気づきのきっかけがたくさんある講座になったと思います。

「日本女性会議2003おおつ(10/17~18)に参加して」

委員 向吉孝子

第20回を迎えた日本女性会議は、秋晴れの10月、美しいまち大津のびわ湖ホールで開催された。1日目の基調講演「平等と平和の世紀をめざして」赤松良子さんの講演は、“そのために私たちは発言しましょう。”“自立を考えましょう。”また、世界の視点から現状を話され、故市川房枝さんの「平等なくして平和なく、平和なくして平等なし」という言葉には、改めて真剣に賛同している自分がいた。夜には、全国各地の参加者と交流会で情報交換。2日目の「20年の原点」第1分科会は4名のパネラーとコーディネーターの樋口恵子さんの話で、これまでの歩みと今後の展望がいきいきとわかりやすく語られた。午後の記念講演「平等と命の大切さ」と題した瀬戸内寂聴さんの講演は涙あり笑いありで感動の連続だった。

この会議に毎年参加し続ける意義は「男女平等」をテーマにするだけではなく、北から南からの文化、福祉、産業等々の情報交換・交流、ネットワークングで、楽しく回を重ねてきた。現代社会を考えてみる機会になっている。住んでいる地域だけの学習では得られない視野の広がりも感じる。今回は三芳町男女共同参画推進会議の代表として初めて町から派遣された。職員の方百富さんと共に、三芳町の男女共同参画について深め合うこともできた。これからも、日本女性会議には行政と住民のパートナーシップで共に参加し21世紀の創造をしていきたい。



平成15年度 三芳町 男女共同参画推進会議の活動状況

「日本女性会議に参加して」

職員 百富由美香

日本女性会議には3回目の参加である。全国から3,500人もの人たちが多くの想いを胸に集まってくる。女性学の専門家から、地域で活躍している市民、そして行政と男女平等や男女共同参画社会づくりにかかわるさまざまな分野の人たちだ。ここではとにかく元気をもらえる。各地でがんばっている方々のパワーが、ネットワークが参加した私に力となってかえってくる。特に市民パワーには圧巻させられる。三芳町の男女共同参画も町民のみならずと共、特色を活かし、三芳らしく根付くことを望んでいる。一つのまちづくりとして一緒に進めたい、そんな気持ちにさせられる会議だ。この会議には町も十数年前のプラン策定時に参加していたことがある。そして、その後も毎年参加し、資料を提出し続けた向吉さんの熱心な行動が実を結び、今や共に三芳の男女共同参画を推進するパートナーである。少しずつだが着実に歩みを進めていると実感している。

「女性学・ジェンダー研究フォーラムに参加して」

委員 静間浩美

武蔵嵐山にある国立女性教育会館で開催されたフォーラムに推進会議委員3名で参加した。3日間開催のうち私は初日の開会式、基調講演にでた。日本全国から多くの方が参加され、ホールの座席が足りないほどだった。開会に先がけて、嵐山駒王太鼓愛好会による迫力あるアトラクションも開会を盛り上げていた。「21世紀の男女平等、開発、平和一わたしの権利」というテーマに基づいて和光大学教授の井上輝子先生による講演。それを受けてパネルディスカッションが行われ、1970年代のウーマンリブの話に触れながら、現在女性の置かれている状況とさまざまな矛盾や問題提起がなされた。パネラーの方々が日々の活動を通して感じていること等の話は、これから変えていかなければならないところがまだまだあるということを改めて実感できる内容だった。自分自身ももっと積極的に学び続けることの必要性を強く感じた。